



80回目の終戦の日を迎えて感じること

身近な平和を守るために

2025

8

NEWS

特攻の「影」を知る

2025年(令和7年)8月15日(金)

朝日新聞 引用

戦争を知らない私たちでも、歴史を知ることで学べることができます。後世に伝えることができるはずです

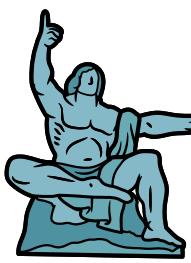


鹿児島県南九州市の知覧特攻平和会館の壁には二十歳前後の若者たちの遺影が並んでいます。太平洋戦争末期、知覧は特攻出撃基地でした。特攻は、航空機などで乗員ごと敵に体当たりする自殺攻撃。特攻隊員は「志願者」で構成されるとされていますが、本当は、みんな生きたかったはずです。「お国のために」という大義名分がないと、特攻などできないと思います。大義として遺書には、『只今より出撃致します。実に喜び勇んで居ります』と記されていますが、『死にたくないけど、命令で行かされます』というのが本心であったのではと考えます。最近では、特攻隊員の遺書や遺影を見て語り合い、生き方や仕事への向き合い方を見つめなおすという旅行ツアーがあるそうですが、隊員たちの真意はどうだったのでしょうか。多くの犠牲があり、それでも再建できた日本だからこそ、平和のために戦争を忘れてはいけないと思います。



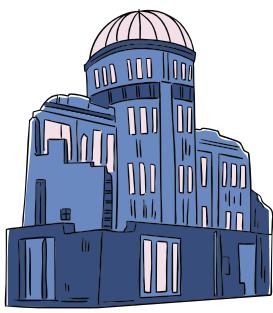
THINK

唯一の被爆国として



世界で唯一の被爆国である日本は、核軍縮・不拡散の取組に力を入れている国です。その国に生きる我々は、過去から学び、戦争のない世界を築くために努力が必要だと思います。何かの運動に参加したり、署名したりすることが全てではありません。

「一人からできる平和活動」に取り組むことから始めてください。私たちが暮らすこの平和な時代を次の世代にも繋いでけるように生活することが第一歩です。あなたの隣にいる人を大切にすることが、その一番最初にすべきことだと思います。家族や友達、身近な人を大切に！



MATERIALIZE

実現するために

昭和天皇が示した「長く続く未来のために平和を実現したい」という言葉を受けて、もう一度「終戦の詔書」を読み直してみました。そこには、要約するところ書かれています。感情のままに争ったり、仲間同士で互いに陥れ合ったりして道を間違うと世界の信頼を失ってしまう。一丸となって力を合わせ、この国を後世に伝えながら國の再建と将来の建設に全力で取り組んでほしい。道徳を大切にし、高い志で我が國の美しさを發揮し、世界に後れを取らないようにしてほしい。これを理解し、國民のあなたたちが正しい行動をすることを願う。※「終戦の詔書」【2025年令和7年8月15日(金)産経新聞引用】

この内容は、長年に渡り日本社会の基盤となって私たちに受け継がれてきました。時代が変わり、社会は目覚ましく発展してきましたが、便利な器機を生産することや富を得ることだけが平和ではないはずです。私たち自身のために、平和についてもう一度考えてみてください。



CHCK IT

8月25日(月)は2学期の始業式です

いよいよ夏休みも残すところ10日を切りました。宿題や新たな挑戦は順調でしょうか？持ち物は、通知表・夏休みのしおり・宿題・筆記用具です。明るく笑顔で元気に登校してくれることを願っています！

時間軸をもとに戻す

そろそろ学校生活を意識して、起床時間と就寝時間を戻して生活するようにしてください。

暑熱順化して外出を

クーラーのきいた室内から急に外に出るのではなく、体を少しづつ外気に慣れさせてから登校すること。

身だしなみを整えて

頭髪・爪・装飾品などでルール違反がないように、始業式までに整えておきましょう。

保護者の皆様へ

夏季休業中も夜間巡回や部活の応援でお世話になりました。2学期が始めます。生徒たちがよいスタートを切れるよう、お声掛けをお願いします。

歌島中学校
公式HP

